

那須における水田・里山放牧の普及

那須農業振興事務所経営普及部畜産課 相馬 光美

1. 那須管内における和牛繁殖経営の現状

1) 和牛繁殖発展の経緯

那須北部は古くは軍馬の放牧地として発展してきたが、馬産地の衰退に伴い、それに代わる新しい作目として、昭和36年頃、数戸の農家が和牛繁殖を導入したことが動機となり徐々に地域に波及した。

昭和40年代には各集落で牧野管理組合が設立し、約50haの草地造成が行われ共有地の牧野化による夏山冬里方式が取り入れられ、各地域の稲作農家に和牛繁殖の導入が行われた。

大幅な和牛繁殖牛の増加は昭和46年、稲作転換対策が実施されて、転換作目の選定に直面し、新規者による和牛繁殖の導入及び既存農家の規模拡大が那須全域で行われた。

昭和47年、県単和牛導入事業を足がかりにして、昭和49年、JA事業の無家畜農家解消運動の推進が実施され、昭和50年代に入って推進が実り和牛改良組合が設立され和牛繁殖基盤が充実された。

昭和58年、和牛子牛市場価格の低下が起こり和牛繁殖経営に不安が起こると同時に稲作転換対策が益々厳しくなり経営不安に一層の拍車をかけたがJA、関係指導機関が連携し和牛部会で、牛づくり、草づくり、土づくり、人づくり等を支援した。

昭和59年より那須地区に畜産基地公社営事業が実施され草地整備、施設・機械の整備が図れ自給飼料型和牛繁殖経営基盤が確立された。

平成12年より、JA那須野において「和牛繁殖雌牛増頭戦略会議」が設立され和牛繁殖経営の拡大及び和牛子牛出荷頭数6,000頭を目指した運動が展開されている。

那須管内の和牛繁殖飼養戸数・飼養頭数状況（平成14年度JAなすの調査）

飼養戸数

（単位：戸）

大田原	西那須野	塩原	黒羽	湯津上	那須	黒磯	合計
68	34	46	65	24	301	171	709

規模別飼養戸数

（単位：戸）

頭数	大田原	西那須野	塩原	黒羽	湯津上	黒磯	那須
1～2頭	17	6	14	27	2	49	79
3～4	22	8	10	9	4	31	51
5～9	10	9	11	18	7	50	69
10～14	8	6	9	6	3	20	38
15～19	5	2	1	3	5	4	24
20～29	3	2	0	2	2	6	28
30～	3	1	1	0	1	11	12
合計	68	34	46	65	24	171	301

年齢別飼養戸数

(単位：戸)

年 齢	大 田 原	西那須野	塩 原	黒 羽	湯津上	黒 磯	那 須
～ 3 0	2	0	0	1	1	6	7
31 ～ 40	5	4	2	3	5	12	23
41 ～ 50	9	6	4	11	7	42	100
51 ～ 60	22	3	16	21	9	55	94
61 ～ 70	24	17	19	18	2	47	60
71 ～	6	4	5	11		9	16
企 業							1
合 計	68	34	46	65	24	171	301

飼養頭数

(単位：頭)

大田原	西那須野	塩 原	黒 羽	湯津上	那 須	黒 磯	合 計
513	291	283	348	272	2,726	1,538	5,971

1戸当たりの飼養頭数

(単位：頭)

大田原	西那須野	塩 原	黒 羽	湯津上	那 須	黒 磯	平 均
7.54	8.56	6.15	5.35	11.33	9.06	8.99	8.42

平成14年度和牛子牛販売実績 (JA なすの調査)

販売頭数

(単位：頭)

大田原	西那須野	塩 原	黒 羽	湯津上	那 須	黒 磯	合 計
389	279	258	250	166	2,349	1,067	4,758

販売頭数の内受精卵産後頭数

(単位：頭)

大田原	西那須野	塩 原	黒 羽	湯津上	那 須	黒 磯	合 計
55	67	51	16	53	446	227	915

飼養頭数に対する出荷率

(単位：%)

大田原	西那須野	塩 原	黒 羽	湯津上	那 須	黒 磯	平 均
75.8	95.9	91.2	71.8	61.0	86.2	69.4	79.7

2) 普及としての和牛繁殖振興の取組

普及活動の基本としては JA 和牛部会を対象として、飼料作物栽培技術(土壌分析・品種選定・雑草対策・肥培管理等)、飼養管理技術(年一産のための繁殖牛の管理・市場規格の子牛づくり・疾病対策等)、経営等の支援を図った。

昭和50年後半より稲作転換が厳しくなり水稻を基幹とする考えから和牛繁殖を基幹とする農家が増え始め、和牛繁殖経営の高度な技術の要望が高まったため、JA と連携して各地区に和牛子牛研究会を設立し、子牛の発育調査、研修会、現地検討会、巡回共進会等

の開催、また、現場における技術実証展示ほを設置して技術支援を図り、和牛繁殖を基幹
作目とした複合経営の基盤づくりの支援を行った。

しかし、一方では和牛繁殖農
家の高齢化、後継者等の問題等
により廃業していく農家も見ら
れるようになり、農地等の荒廃
が目立つようになった。そんな
状況の中で平成14年に畜産草
地研究所との共催で水田転作、
未利用農地を活用した第一回放
牧現地検討会を開催し放牧技術
の普及をはじめ、その後、毎年
現地検討会、研修会等を開催し
て放牧技術の推進に努めた。



那須地域で最初に水田・里山放牧に取り組んだ中村牧場

2. 那須管内の小規模移動放牧経営導入の経緯

今までの和牛繁殖経営は低コストによる施設整備を充実し規模拡大による所得向上を基
本的に考えて経営の確立を図ってきた。そして放牧は公共牧場への預託、または、牧野管
理組合による共有地放牧が行われていて個別経営内での放牧は数戸しかなかった。

このような実情の中で、畜産草地研究所との共催で平成14年の夏に畜産農家（酪農家
・和牛繁殖農家）関係機関を対象に初めての転作田の放牧現地検討会を開催したところ
多数の参加者が得られた。その中で和牛繁殖農家の数名が転作田放牧に興味をいただき自己
経営に取り入れたいとの希望があり、畜産草地研究所・草地畜産種子協会と連携を取り放
牧希望の農家に放牧馴致、草地管理等の放牧技術支援を行い平成15年に和牛繁殖農家2
戸、酪農家1戸が放牧を開始し、16年には和牛繁殖農家6戸が放牧をはじめた。



相馬和至さんの裏山放牧



高張力線牧柵の施工・準備

3. 那須管内の小規模移動放牧の実態

管内における放牧実施農家個数は現在、酪農家7戸、和牛繁殖農家13戸で合計20戸
の農家が放牧を行っている。

和牛繁殖農家の放牧形態は輪換放牧で水田放牧型が6戸、草地放牧型が7戸で、1戸当

たり平均放牧草地面積は 1.3ha である。

牧柵整備は基本的には高張力線を用いた電気牧柵で、立ち木を利用した牧柵、絶縁木、ハイプラポスト、50mmの足場パイプを利用した牧柵等による放牧整備が行われている。

和牛繁殖雌牛の平均飼養頭数27頭で、主に和牛繁殖雌牛を放牧しているが、特に受胎率の悪い牛を優先的に放牧を行い年一産を目指している。また、最近は親子で放牧している農家も見られるようになった。

放牧に対する周囲の地域住民は最初、子供には安全か、脱柵はないか等の意見がありましたが実情を良く説明して理解を得て、放牧を開始したら安全であることが理解され、逆に放牧を是非続けて下さいとの希望する意見も聞こえるようになった。また、放牧を実施したことにより地域の景観が良くなり地域住民には大変好評である。

酪農家の平均放牧草地面積は 1.6ha で主に育成牛を対象として放牧し将来に向けた足腰の丈夫な牛づくりを目的として放牧を行っている。



ハイプラポストを使った水田放牧



平成16年から水田放牧を始めた高梨牧場



親子とも放牧している平山牧場

那須管内における放牧型

		水田裏作放牧型	水田放牧型	草地放牧型	備 考
和牛繁殖		1戸	7戸	7戸	和牛繁殖農家の放牧戸数は重複戸数
酪農	成 牛			3戸	
	育成牛			4戸	

4. 那須地域放牧利用研究会の設立の経緯

放牧研究会の設立の動機は、平成14年に畜産草地研究所と共催で第1回放牧現地検討会を実施したところ放牧技術に興味を持った畜産農家の数名が放牧を取り入れたいので支

援をお願いしたとの希望があった。そこで、畜産草地研究所、草地畜産種子協会との連携により放牧に関する技術支援を図り放牧を始めたところ、放牧に関する研修会を開催していただきたいとの相談があり、そこで個人的支援には限界があるので研究会組織を設立して、研修の場を作ってはどうかと提案したところ賛成を頂いた。

平成15年10月に畜産農家発起人10名、畜産草地研究所、草地畜産種子協会、JA などの、酪農協等の参加を得て、那須地域放牧利用研究会設立準備会を開催し、研究会の名称、規約、役員体制、設立総会の期日・内容等の会議を行った。

平成15年12月に那須地域放牧利用研究会設立総会（会員32名）を開催し、放牧研究会の趣旨説明、規約の承認、役員体制の承認を得て那須地域放牧研究会が設立された。



那須地域放牧利用研究会設立総会

5. 那須地域放牧利用研究会の活動及び成果

活動内容は、自給飼料生産の向上を図るため、転作田及び未利用農地の効率的利用を図り、低コスト生産による畜産経営の研究調査及び会員の連携強化を目的として、放牧技術の向上を図るため講習会・現地検討会等の開催、経営の質的向上を図るため、先進地視察・情報交換・試験研究機関との交流実施、生産資材の共同購入、会員の親睦（仲間づくり）等を目的として活動を行っている。

活動成果は、研修会、先進地視察、現地検討会等の開催により草地栽培管理、放牧馴致方法、牧柵整備・管理技術、放牧牛の管理等の放牧技術が習得され事故・疾病もなく順調に放牧が行われている。また、年齢、後継者の問題で飼養頭数を減らすことを考えていた和牛繁殖農家が放牧を始めたことにより、放牧草地を拡大し和牛繁殖雌牛の増頭する動きが出てきている。そして、大きな効果は研究会



現地研修会

活動を始めたことにより JA 那須班和牛部会

では8月に放牧現地検討会を開催し部会員に放牧導入の動機づけを図り、今後、放牧導入農家の増加が伺える。

6. 那須地域放牧利用研究会の今後の方向性

- ・組織の活動強化と充実
- ・放牧指向農家に支援を行い仲間づくりの推進
- ・地域の耕作放棄地を積極的に有効利用し良好な農村景観の推進
- ・和牛飼養高齢者に対し放牧技術の支援を図り、ゆとりある楽しい和牛経営の推進